2019 年度　神戸大学男女共同参画推進室　ユネスコチェアサマープログラム　感想・報告書
2019 Kobe University Gender Equality Office UNESCO Chair Summer Program Reflection Report

学部・研究科 Faculty/School	学科･コース Course
Law	Politics and Law

(1) 見たこと/What you saw; (2) 考えたこと/What you thought; (3) 感じたこと/What you felt; (4)ジェンダーに敏感な災害対策はどのようなものだと思いますか/What you thought about gender sensitive DRR support

インドネシアジョグジャカルタで実施された第２回神戸大学ユネスコチェアサマープログラに 8 月 18 日から２週間の日程で参加した。プログラムのテーマは災害におけるジェンダーと脆弱性に関するものであった。プログラムでは、フィールドリサーチとして災害対策チームや担当者、避難先での被災者へのインタビューを実施した。このフィールドワークは、インドネシア、台湾、日本の各国からの学生との協働で行われ、調査結果を元にして。プログラムの終盤において新技術の開発や災害対策、復興計画への提案を行った。

学生との議論から、文化によって災害に対する反応が異なるといいうことを知ることができた。学生はそれぞれ災害を複数回経験した人もいれば、一度もない人もいた。私自身は一度も災害を経験したことがなく、他学生の経験を聞くことによって、災害を経験した時にどう感じるのかを想像することで理解に努めた。異なる文化を持つことは、異なる反応を引き出すと感じた。例えば、ムスリムのインドネシアの人々は一日に５回お祈りをするため、避難所に祈祷室が必要である。しかし、大部分の台湾人や日本人はそのような部屋は不必要であろう。私は、正教会やカトリックが主要宗教の国で育ったが、母国でも同様にそのような部屋は必要ないだろう。　他学生とのディスカッションから、避難所の設置には宗教のような議題を議論する必要があるということを知ることができた。他には、災害の際の軍隊の役割についても主な相違いがあった。英国出身の私を含めた台湾、日本の学生からは、災害時に軍隊が主導権をとることはまれであり、それらについての懸念が指摘された。また、災害の危険性があるにも関わらず、避難を拒否する住民に対しては、インドネシアでは、軍隊はそれらの人々を強制的に非難させることができるとのことであった。台湾からの学生や私はとても驚いてしまった。災害も含めたあらゆる場合においても、そのような権力の行使は受け入れられないと思う。

フィールドワークやワークショップにおいて、様々な国からの多様な学生と協働作業を行ったのは、有益であった。今後にも役立つであろう批判的思考、遂行スキル、国際的場面での協働、コミュニケーションスキル、リーダーシップスキルなどを得ることができた。就職活動の際や卒業後にも、今回のプログラムを修了したことは、企業が求めるような上記のスキルを得たことの証明とし活用できるであろうし、最近は多くの職務内容に海外研修等の経験が求められることもある。

今回のプログラムは、学びやスキルを得られたこと以外にも、異なる文化をもつ学生との協働や友人として親しくなれるような機会を提供していただいた。　講義を除くワークショップや課題を協働で取組み、フィールドワークでは学生自身で計画し、実際に町を散策しインドネシアの文化に触れ、お互いについてもより良く知りあえる機会となった。我々の文化それぞれについて話し、文化の相違についても共有することができた。Borobudur and Prambanan を訪れた際には、そこにある素晴らしい寺院についての話を伺うことができた。私は、欧米にオリエンタル・スタディーズやインド・スタディーズを拡げたミルチャ・エリアーデ作の古代インドのサンスクリット叙事詩を学んだことがあり、ライブパフォーマンスを拝見したいと以前から思っていた。それが思いがけずラマヤナバレイ団による古代インドのサンスクリット叙事詩であるインドネシア版マハーバーラタの演目を観覧する機会に恵まれた。　さらに、台湾人学生がお祝いの伝統的な方法について紹介してくれたが、先祖があの世で生活に困らないように偽紙幣を燃やすとのことであった。中国と台湾の人々が中秋節を異なる形で祝うということも学ぶことができた。